クラスの様子 【8 月号】

●ひよこ組　今月の目標　保育士や友達といろいろな遊びを楽しむ。

園の生活にも慣れ友達同士のかかわりも増えて楽しく遊ぶ様子が見られるようになりました。朝、友達が来ると近寄っていき笑顔をみせたり、タッチをしたりとてもうれしそうな表情を見せています。仲間意識が少しずつ芽生えてきているように思います。また１人の子がおもちゃで遊んでいると興味をもち近寄っていき3,4 人で遊ぶこともあります。保育士や友達の遊び方を見てから一人でじっくりと楽しんで遊ぶ子もいます。こんなに小さい子でも見て学ぶ力があることを感じます。7 月はあまり水遊びが出来なかったので、8月はみんなで水遊びが出来たらいいなと思います。水に対しての関わり方も積極的に遊ぶ子もいれば手だけ触れて楽しむ子もいます。それぞれの思いに寄り添いながらいろいろな水遊びを楽しんでいきたいと思います。また、水分補給、体調管理には十分に気をつけていきたいと思います。（石田）

●りす組　今月の目標　夏の遊びを通して保育士や友だちとのやり取りを楽しむ。

暑さもだんだん厳しくなってきて、ベランダでの水遊びも始まりました。ホースで水を出し、バケツやじょうろ･霧吹きなどで楽しんで遊んでいます。水がかかっても平気な子は自分から水を汲みに行ったり、身体にかけたりし、顔にかかるのが苦手な子たちは少し距離を取りながら自分なりに考えて遊ぶことができています。徐々に水にも慣れてきているのでまた体調を見ながらプールに水をはってみて、ダイナミックに遊べる環境も用意していければと思います。水遊びをする際、衣服の着脱や水着の片付けなども一人ひとりのペースで挑戦しようとする姿も増えてきています。やってみようとする気持ちを大切にし、見守っていきたいと思います。

製作では、保育士が用意をしているところを見たり、どのようなことをするか話を聞くことで興味を持ち、やりたい子は自分から進んできてくれます。また、お友だちが楽しんでしている様子をみて、他の子もやってみたいと心が動く姿もあります。またいろんな色にも興味を持ってきているので、画用紙などを自分で選ぶようになってきています。これからも子どもたちの興味のあるものを見ながら、活動に取り入れていければと思っています。（伊達）

●うさぎ組　今月の目標　泥んこ遊びや水遊びなどの夏ならではの遊びに親しみ、楽しんで取り組む

7 月前半は体調不良で欠席する子が多かったですが、後半の天気が良い日は水遊びを楽しみました。衣服の着脱には個人差がありますが、保育士の助けを借りながら自分でやってみようとする姿があります。「できた！」という経験を積み重ね、いろんな事に挑戦してみようとする意欲や自己肯定感を育んで行きたいと思います。7 月 27 日には夏祭りごっこをしました。前の週は以上児さんの夏祭りごっこに少し参加させてもらったので、当日はイメージがしやすかったのか期待感をもって参加し、楽しむ姿がありました。ライオン組のお兄さんお姉さんたちとの関わりでは、緊張しながらもすごく嬉しそうにしていた子どもたちでした。今回のような自然な関わりを増やしながら、来年度までの見通しを持って保育していきたいと思います。（真里亜）

クラスの様子 【8 月号】

●さくら・くぬぎ・とちのき組　今月の目標・暑さに負けず夏ならではの遊び・活動を楽しむ。
・植物や生き物に興味を持ち、観察し大切にしようとする気持ちを育てる。

7月は梅雨の雨や感染症の流行によって、思うようにプール遊びを楽しむことができませんでした。そのような中ライオン組の子どもたちを中心に夏祭りごっこを開催しました。何回も子どもたちで話し合う機会をつくり、リハーサル・反省会を繰り返し、どうしたら小さい子たちが喜ぶのか考えて取り組む姿がありました。当日は「いらっしゃいませ～」「〇〇ちゃんこっちあいとるよ」など子どもたち自身から積極的に声掛けをしてくれていました。本番前にも「緊張する」「上手にできるかな」など、一生懸命計画してきたからこそ味わえる緊張感を体験することができました。年長・年中児の子どもたちも夏祭りごっこ当日を楽しみに待ち、ワクワクした様子でお祭りに参加する姿がありました。年長児の姿を見て憧れを抱き、刺激を受けてくれているといいなと思います。

気温が高く暑い日が続いていますが、熱中症に気を付けながら屋外での活動も楽しんでいます。

子どもたちからの希望で園庭での生き物探しに人気が出てきました。「クワガタおる！」「今日もセミがないとる！」「カエルつかまえた！」など大興奮の子どもたちです。生き物を見つけるとすぐにとちのき組の絵本コーナーから図鑑を持ってきて、種類や名前、性別など調べる子どもたちの姿があります。セミの本を読み、7年かけて地上に出てくるものの2週間しか生きられないことを知った子どもたちは「ちょっとしか生きれやんのやで見るだけにしよ」など生き物の命を大切にしようとする声も聞こえてくるようになりました。

子どもたち自身で観察したり、気になることを調べたり、命の大切さに気付くことができる環境づくりをこれからもしていきたいと思います。（小林）